

19. 人工海中林造成試験

人工海中林造成試験

増殖科 岡村雄吾

1. 目的

磯焼け地帯に人工海中林を造成する。

2. 材料及び方法

(1) 母藻移植

須崎市久通産カジメ約260株を、120個の建材コンクリートブロックにゴムバンドで固定して、平成2年11月7日須崎市池の浦地先水深6mに移植した。

(2) 種苗生産

須崎市久通産カジメを母藻として、平成2年11月15日から広田ら(1977)の方法に準じてカジメの種苗生産を実施した。

3. 結果

(1) 母藻移植

12月6日の潜水調査では、移植した全てのカジメは茎径移行部から先が流失しており、基部のみとなっていた。移植場所周辺にはカジメの幼体は確認できなかった。平成3年4月23日及び5月27日の観察では移植場所周辺に7~20cm、単葉個体から中央葉に側葉を派生した個体が多数確認できたが、天候の悪化や濁りにより詳しい調査はできなかった。

(2) 種苗生産

平成3年4月13日以降、高知大学(研究用)、香川県(養殖試験用)、佐賀漁協(藻場造成用；高知県幡多事務所水産商工課担当)、窪津漁協(藻場造成用；土佐清水漁業指導所担当)及び大月町(藻場造成用)に、カジメ幼体を配布した。

4. 文献

広田仁志・生田敬昌(1977) 種苗生産等技術開発試験 ヒロメ・カジメの人工採種試験
昭和50年度高知水試事報, 105-108